

いなかがおか)



IV

2016

No. 171

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅－XXXXIII

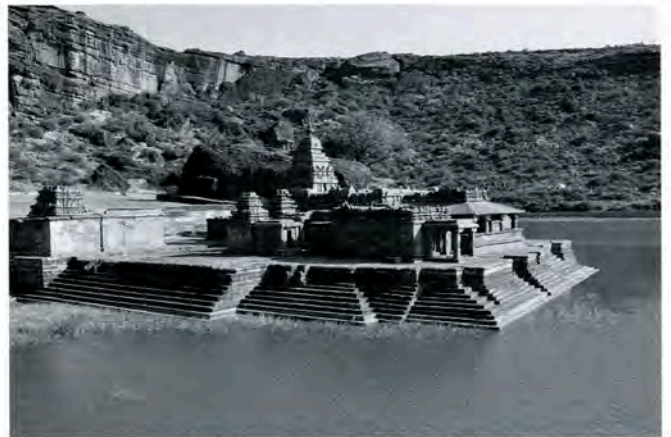
下馬部会 齋藤賢一

今回は20年ぶりに訪れた前期チャールキヤ朝の都、バーダーミ、アイホーレ、パッタダカルのお話をしたいと思います。遺跡の旅のVIIIでおおまかな話をいたしましたが見聞を交えて今回はバーダーミへ行きます。バーダーミの町は20年前とほとんど変わっておらず、国道沿いや駅のそばに新しい建物が建っただけで町中はそのままで。三方を岩山に囲まれ美しい人造湖を持つバーダーミは時間が止まったようでとても平和です(写-1)。バックパッカー(インドを放浪する人々)がここに落ち着くのが良くわかります。狭い石畳の路でブタの親子と子供達が遊んでいます。人造湖では女性陣がおしゃべりしながら洗濯です。釣りをしている人、木陰で勉強している人、とてもものんびりしています。遺跡はすべてこの人造湖の周りにあります。ここが6世紀の中頃に南インドを支配したチャールキヤ朝の首都とはとても思えません。



写-1 「バーダーミ 北側岩山より」

まずは自然にとけ込んだとても美しいブータナータ寺院へ行きます。湖の一番奥にあるので湖に沿ってお散歩です。近づくにつれ、とても美しいのですが以前と何か違う違和感があります。それは以前あった樹が切り取られてしまったからでした。涼しげでとても雰囲気があったのですが残念です(写-2)。周囲は綺麗に整備されています。7世紀の寺院で彫刻はあまり残ってはいませんが、この寺院の裏の岩に「アナンタ



写-2 「ブータナータ寺院」



写-3 「石窟の坐像」

龍の上に横たわるヴィシュヌ」が彫られています。さらに湖に沿って進みますと小さな石窟の中に坐像が彫られ、施無畏と願印を結んでいますので仏陀ではないかと思われます。また光背が彫られ、マカラ(空想上の魚)、シンハ(ライオン)、払子を持った人物が彫られています(写-3)。

さらに湖を回りますと有名なバーダーミの石窟寺院があります。岩山の南側に四つの窟があり三つはヒンドゥー教、一つはジャイナ教です。入り口で料金を払い階段を登ると目に飛び込むのは第一窟のナタラージャ(シヴァ神の舞踊)の彫刻です(写-4)。中に入り左側の壁に四腕のハリハラ像が彫られています(写-5)。ハリハラとはヴィシュヌ神(ハリ)とシヴ



写-4 「第一窟」

ァ神（ハラ）の合体像で、向かって左側の後の手にはシヴァ神の持ち物である蛇（ナーガ）が絡まった斧を、右側の後の手にはヴィシュヌ神の持ち物である法螺貝を持っているので解ります。頭飾りも中央で分離されていて左のシヴァ側は髪を結い上



写-5 「第一窟 ハリハラ像」

げたもの、右のヴィシュヌ側は冠です。従って左右にほぼ同じ姿の女神が立っていますが、左側の女神がシヴァの妃であるパールヴァティー、右側がヴィシュヌの妃であるラクシュミーです。そしてその間にいるのがシヴァの乗り物である牛（ナンディ）と反対側にはヴィシュヌの乗り物のガルダが表されています。右の壁には向かって左半分が男（シヴァ）、右半分が女（乳房が表されている＝パールヴァティー）の両性のシヴァ（アルダナリーシュヴァラ）が彫られています（写-6）。左側の手には蛇の絡まった斧、右側の手にはパールヴァティーの持ち物である半開の蓮華を持っています。左側には乗り物の牛とシヴァ神に帰依した痩せ細ったプリングが表されています。この窟はシ



写-6 「第一窟 両性のシヴァ」



写-7 「第二窟 矮人の化身」

さらに、野猪の化身（ヴァラーハ）、などが彫られています。

さらに石段を60段ほど登り小さな門をくぐると第三窟です。ヴィシュヌ神に捧げられており、一番大きく重要な窟です。中に入ると前廊の左側にナーガの上に座すヴィシュヌ像が彫られています。三重にとぐるを巻く五頭のナーガの上に座し、四つの腕には法螺貝と、円盤（チャクラ）を持っています（写-8）。

ヴァ神に捧げられています。

外に出て65段ほど石段を上ると第二窟でヴィシュヌ神に捧げられています。前廊の右壁に左足を上げて

いるヴィシュヌ神の矮人の化身（ヴァーマナ）彫刻があります（写-7）。バリというアスラの王が三界を支配していたとき、ヴィシュヌ神が矮人として現れ、バリに三步で歩ける土地を求め、了解されるとすぐに巨人と化して三界をまたぎ超え支配権を取り戻したという話です。左足を高く上げて

いる像はすべてヴァーマナと思

って間違いありません。そのほか、野猪の化身（ヴァラーハ）、などが彫られています。

その他、人獅子の化身（ナラシンハ）、野猪の化身（ヴァラーハ）、ハリハラ、矮人の化身（ヴァーマナ）などの彫刻がありますが、見物は柱の上の男女の人物像です。樹下でとても仲の良いカップルです（写-9）。この柱頭の男女像はこの後のチャールキヤ朝の寺院で多用されていきます。この上に第四窟のジャイナ窟があります。そこからの眺めは最高です。湖の反対側の岩山にはこれから行く寺院が見られます（写-10）。



写-8 「第三窟 ナーガの上に座すヴィシュヌ像」



写-9 「第三窟 柱頭の男女像」

それでは反対側の北の岩山にあるマーレギッティ・シヴァラーヤ寺院へ行きます。一番西側にあり一番低い位置にあります。けっこう坂を登ります（写-11）。7世紀に建立された美しい寺院で南面には四腕のシヴァ立像、北面には四腕のヴィシュヌ像が彫られています。東正面の左右の壁龕には門神が彫られ上部にはアランプールで見たマカラのアーチが見られます。基壇にはガナ（小人）、その上にチャイティヤ窓の中に人面



写-10 「第四窟から北側岩山を望む」



写-11 「マーレギッティ・シヴァラーヤ寺院」



写-12 「マーレギッティ・シヴァラーヤ寺院 壁龕の彫刻」

が、その上に想像上の動物や象が小さく彫刻されています（写-12）。ここからの夕日はとても綺麗で町の人達がやってきます。

次のシヴァラーヤ寺院にはここから行くことが出来ないの一度湖に戻り別の道から登って行きます。城門をくぐって上で行くと下シヴァラーヤ寺院があります。7世紀の建



写-13 「上シヴァラーヤ寺院」

立で本殿のみ残す遺構です。さらに上り頂上に着くと上シヴァラーヤ寺院が見えます(写-13)。下シヴァラーヤ寺院よりは保存状態が良いのですが、前殿と玄関は崩壊しています。残っている前殿や基壇の四隅に大きな象が立体的に彫刻されています。また基壇にはガナ(小人)や神話が彫刻されています。

市内の観光を終了してバーダーミ近郊にある重要な遺跡を見学したいと思います。一つはチッカ・マハークータ寺院(CHIKKA MAHAKUTA)でU字型で独特の形をしています。7世紀の建立で、以前来たときには木々に覆われていて全貌が分かりませんでした。今回は周囲の樹木は伐採され、綺麗に整備されています(写-14)。この寺院は白く塗られ現在も村人達の信仰を集める生きている寺院です。内部にリングが祀られ、入口にナンディ(聖牛)が安置されているシヴァに捧げられた寺院です。細い道をかなり奥へ入ったところにあり、周りに人家も何もありませんが、とても大きなバニアン樹があり大きな日影を作っているため、村



写-14 「チッカ・マハークータ寺院」



写-15 「ナーガナータ寺院」

の男衆が集まって世間話をしています。みんな自転車やオートバイでやってきます。この回りはウシが放牧されているので下草が生えていない絶好の場所で、涼しく20年前も同じように男衆のたまり場でした。

もう一つは前回お話ししたRAJJA GAURI像が発見されたナーガナータ寺院(NAGANATHA)です(写-15)。繞道をめぐる聖室に広い前室が付き、さらに



ポーチが付いています。聖室の上に方形の二階が建ち上がっています。屋根はとても古い形態で、内部の天上の彫刻も素晴らしい出来です。7世紀に造られ、興味深いのはポーチの柱に彫刻された男女像でとてもエロティックです

写-16 「ナーガナータ寺院ポーチの柱の彫刻」(写-16)。

バーダーミの興隆した6世紀から8世紀にかけては、日本では飛鳥時代にあたります。現在の飛鳥の地も飛鳥川に沿って田んぼや棚田が続くとてもどかな場所です。当時の建築物はすべて木造ですので、今はほとんど残っていませんが私達がこの地に立つと自然に郷愁の念に駆られるのはなぜでしょう。インドでも

石造の建物が出来たのは6世紀頃からで、それまでは木造かレンガでしたので6世紀以前の建物はありません。その早い時期の石造建築がここにあり、周りの雰囲気も昔とあまり変わらなかったと思われま

す。違いますがバーダーミで感じる懐かしさも同じものかもしれません。夕方甘檜丘に登ってみる夕日、マーレギッティ・シヴァラーヤ寺院に登ってみる夕日、インドをととても近くに感じる瞬間でした。

本誌「うめがおか」の大先輩であられる石川欣彌先生がご逝去されました。紙面をお借りして心より哀悼の意を表します。安らかにやすみ下さい。

